

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、法人の理念を基本とし、当ホームの理念を理解し、入居者様が穏やかに過ごせるよう努めている。	法人の理念とホーム独自の理念「明るく、楽しく、元気よく・その人らしく輝いて・優しい心で・地域に根ざして」を玄関入り口に掲示し来訪者の目に留まるよう掲示している。家族に対しては利用契約時に法人理念とホーム理念を説明している。ホーム内部では職員会議の席上理念を唱和し、理解を深め支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方への挨拶、散歩時の挨拶を行いながら交流を行っている。 近隣の保育園との交流会も年間8回行っている。地域の方が新聞紙や古布などの提供をして下さる。	お祭りや行事には連絡があり寄付を納め、お祭りの時には神輿がホーム前まで来て披露をいただいている。市社会福祉協議会から紹介を受けたボランティアが毎月来訪し、年1回、ボランティア定例会にも参加していただき交流を深めている。また、保育園児との交流も毎月行われ、ホームに来訪し歌や踊りを披露し楽しいひと時を過ごしている。更に、中学生の来訪も定期的にあり外出支援や傾聴ボランティア、ゲーム等で交流の時間を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生のボランティアを受け入れたり、企業ボランティア休暇者の週1回のレクボウを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度運営推進会議の開催、家族代表者にも参加をして頂きながら日々の入居者様の様子、身体拘束廃止の取り組みを報告しながら意見を頂いております。	奇数月の第4金曜日に運営推進会議を開催している。家族代表、民生委員、市高齢者介護課職員、地域包括支援センター職員などが参加し、利用者状況、事故報告、身体拘束適正化に伴う報告、行事報告等を行い、意見・要望等をホームの運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、市への報告を行う。 上田地域広域連合の介護相談員さんとの交流懇談会に参加し情報の交換を行っている。	地域包括支援センター主催の交流会に参加し情報を得ている。「きやりあねっと」の研修に新人から勤務年数に応じた各研修会に職員が参加している。介護認定更新調査には殆どの家族が参加し、市からの調査員と日頃の様子について話し合いを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会に職員1名配属し、毎月参加。 会議時には、認知症の勉強会、身体拘束をしないケア実践の意見交換を行っている。	ホームには身体拘束委員がおり、法人全体で行っている月1回の会議に参加し、職員会議時に勉強会などを行っている。外出傾向の強い利用者がいるが、毎日のごみ出しに10分位職員と共に散歩をしたり買い物に行き外気に触れている。センサーマット使用についてはその理由を明確にし、家族了解のもと転倒防止のため使用している。玄関は街の中の交通環境も踏まえ、安全確保のため施錠している。	

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレス、身体疲労の緩和に努め、職員が楽しく仕事ができる環境に努めている。 認知症の理解、パーソンセンタードケアを進めることで防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様1名が成年後見制度を利用されており、月に1度後見人さんが来園されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項説明を十分に行い不安の無い手続きをしています。解約、改定時には文章添付の上説明し、御理解した上で署名、捺印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な面会の際や、イベント、家族会に参加して頂いた際、入居者様の様子を伝え、家族からの要望を聞き、日々のサービスに反映するよう努めています。	家族参加の忘年会を年1回家族会として行っている。その際、食事を兼ねボランティアにも参加していただき交流を深めている。年6回、2ヶ月毎にワゴン車2台で外出を計画し、5～6組の家族が参加しており、曜日を変えることにより一年を通して全家族が参加できるように工夫している。誕生日会には家族にも声掛けし、参加していただき、一緒に写真を撮りお祝いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の相談に乗り、職員のやってみたいことに協力的にサポートしている。	月1回の職員会議は勤務に当る職員も参加出来るよう工夫し行っており、勉強会も取り入れている。人事評価制度に伴う自己評価は毎月行い、個人面談も管理者が年3回行い、年末にも行い賞与に反映している。法人で職員アンケートを実施し、日帰り旅行、ボーリング、サッカー等の法人内の職員交流行事も実施し、職員も希望のコースに参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を利用しながら職員面談を行い、職員のやりがい、目標設定を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行われている研修、勉強会への参加を促しと、外部研修へ参加を勧めている。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交換研修を行い、互いに向上し合いサービスの質を高めていく機会としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、本人との関わり時間を多くし、本人の訴えに耳を傾けている。 担当職員が1名おり、担当職員が中心となり要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネが家族と面談し、家族等の要望を聴き取り、プラン作成を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や、相談を受けた際には、必要とされる支援、施設の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	礼儀正しく挨拶をしている。 ホーム内の軽作業や、料理を一緒に行いながら生活を共にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出支援時には、家族に参加して頂き、一緒に楽しい時間を過ごして頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ定期的に利用している方もいる。 入居者様自宅の近所の方と話す機会を作ったり、ホームへ遊びに来て下さる方もおられます。	入居前の近所の人の面会があり居室にて話をされている。また、兄弟、孫、親戚が面会に来て会話を楽しまれている方もいる。馴染みの美容院に家族と共に行く利用者もあり、都合がつかないときは職員と出掛けしている。更に、毎週金曜日には馴染みのパン屋さんがホームに来訪し買い物も楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様の輪の中に入り、和やかに会話が出来る環境作りに努めています。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住替えなさって頂いた施設への面会の実施。必要に応じて情報提供に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様個々の担当職員を中心に本人の希望を伺ったり、本人の行動より、思いに添うよう努めています。	自分で意思表示の出来る方が半数強、行動や表情から意向を汲み取る方が半数弱という状況で、1日の行動パターンを把握し二者択一で提案し、希望に沿った支援に取り組んでいる。家族から聞いた生活歴や日々の言動等は申し送りノートにまとめ、職員間で情報を共有し支援に繋げている。遠慮がちな利用者については居室にて1対1で話をする時間を取り、意向を受け止めるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より生活歴をお聞きしたり、前のケアマネより情報提供を頂き、生活支援プランに取り入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、本人のやれる事は継続して行って頂き、それぞれの役割にて軽作業にも取り組んで頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のサービス会議時に、一人ひとりの入居者の現状について話し合い、その後のケアや家族に相談しケアの実践に繋げている。	職員は2～3名の方の居室を担当しており、居室掃除、散歩や外出時の付き添い、家族との連絡等を行っている。モニタリングは担当者が3ヶ月毎に家族とケアマネージャーと行い、ケアプランの見直しは6ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記載し、特別なことは申し送り事項へ記載。他の職員の気づきや工夫を職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合等に対応して、通院介助の付添いや、緊急の場合の入院付添い、面会など柔軟な対応をしています。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からのボランティア受け入れや週1回来て下さるボランティアさんの協力を得ながら外出支援を実施しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望とするかかりつけ医に受診して頂き、必要があれば職員の同行、情報提供を行い受診している。	在宅時からのかかりつけ医を継続しており、家族対応で定期的に受診している。体調に変わりがない場合は3ヶ月に1回受診し、薬は医師と相談し月1回処方していただいている。訪問看護ステーションより週1回看護師が来訪し健康管理を行い、24時間オンコール対応となっている。歯科についても家族対応で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの医療連携を結び週1回の定期的な訪問の中で、情報を共有し、医療的支援が必要になった際には、指示を受け医療機関を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、随時面会に伺い情報の交換、共有を行っている。 入院が長くなってしまう時は、退院後の施設、入所がスムーズに行えるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人としての看取りの指針があり、入所申込時説明を行っている。往診可能な主治医であればターミナルケアの対応は行えるが、現在の所ホーム協力医より移り住むことを提案されることが多い。	入居契約時に「重度化や終末期に向けての方針」を説明している。往診対応の主治医が見つからず看取り対応は行っていないため、引継ぎを確実にし、法人の他施設に移り住んでいただいている。重度化した場合は家族と話し合い、ぎりぎりまで当ホームで過ごしていただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人研修において救急法を学び急変時の初期対応は行える。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消防署員を派遣しての消火器訓練を実施している。 市主催の防災会議に毎年出席し、土砂災害などの話を聞いている。	年2回春と秋に避難訓練を行い、内1回は消防署の参加の下消火訓練も行っている。利用者は全員参加し玄関までの避難訓練を実施している。市主催の「防災会議」に出席し、土砂災害等の話を聞き、夜間一人体制で何ができるか、職員間で話し合いを行っている。備蓄については「水」「レトルト食品」「米」等、3日分を備えている。	

自己 目	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上委員会に職員1名配属しており、外部より講師を招き研修を行っている。女性職員を希望とされる入居者様に対しては、女性職員が対応している。	法人の上田東ブロックにはサービス向上委員会があり、当ホームでも職員1名を配置している。委員会では外部講師を招き研修会などを実施し、研修内容はホーム職員に伝えられている。言葉遣いについてはその都度職員間で注意し合っている。入浴や排せつ介助について女性職員を希望する利用者には女性職員が対応し、職員間で協力し合っている。入室時にはノックと声掛けを行い、居室でのプライバシーに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を使った声掛けにて自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務的な仕事でなく、その方一人一人に合わせたペースを大切にし、本人の希望に添った生活支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容をご自身で行って頂きながら、定期的に美容室、散髪に行かれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が交代で食事を作り、時には入居者様の希望を聞きながら調理している。盛り付け、食器の片づけを入居者様に協力して頂いています。	その日勤務の職員が利用者の好みを聞き、食事づくりを行っている。その際、利用者も盛り付け、食器拭き、下ごしらえのお手伝いを一緒に行っている。ミキサー食、トロミ付き、刻み食、常食など一人ひとりの利用者に合わせている。また、一部介助の方も数名いるが、自分で出来ることはやっていただくようにしている。行事、誕生日には利用者の希望を聞き豪華なメニューにして楽しんでいる。交流のある保育園や利用者家族から野菜、お米などが届き、食卓に上っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を常食、刻み、ミキサーとし、毎食全量召し上がれるよう支援している。1日の水分摂取量1,500ccを目標とし、お好みの水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施、ご自身で行えない方は職員が行っています。週2回、義歯洗浄剤を使用して清潔保持に努めています。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様全員トイレ誘導実施。排泄パターンを把握し、失敗を少なくしている。オムツも昼間、夜用と使い分けしている。	布パンツで自立されている方、リハビリパンツとパットの方など、一人ひとりに合わせ対応している。半数強の方が一部介助で、全介助の方もいるが、できるだけトイレで排泄できるようにしている。排泄パターンを把握し、起床時、食事前、臥床前に声掛け誘導し、失敗することのないようにしている。食事、おやつ時に水分、イージーファイバー、乳製品等を提供し、排便促進に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便促がしの為、水分、乳製品、運動など工夫しています。下剤も使用しながら、排便のコントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本とし、希望を聞きながら入浴日を決めて入浴して頂いています。女性職員希望者は女性が対応し入浴して頂いています。	週2回の入浴日には、利用者一人に対して職員が一人で支援し、出来ることはやっていたくようにしている。重度化するとシャワー浴が職員二人で介助を行っている。女性職員の介助を希望する利用者についてはその日の勤務を変更し対応している。入浴拒否がみられる利用者がいるが、声掛けに工夫したりや日を変え入浴していただいている。入浴剤は季節に合わせて使用し楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎食後の休息を基本とし休んで頂くようにしています。本人の希望を伺いながら対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様ごとに服薬内容がファイルされており、職員それぞれが理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	担当職員を中心に、散歩に出掛けたり、ホーム全体のレクリエーション、軽作業をしながら気分転換をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員との個別外出。ホーム全体の外出支援時には家族の方にも参加をして頂き、外出しています。うえた敬老園までのゴミ捨て散歩には、ほぼ毎日外出しています。	年6回、ワゴン車2台を用意し利用者全員が職員の付き添いで外出している。家族には1年を通して全家族が参加出来るように希望の曜日を聞いて調整している。「国分寺の花見」「水仙の鑑賞」「紅葉狩り」等、常に5～6組の家族が参加し付き添っていただいている。昼食は道の駅にお弁当を予約し楽しんでいただいている。	

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持している入居者様はおられません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族より希望があれば対応していましたが、現在の入居者様には、希望される方はおられません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は程よいスペースであり、何時でも誰かがいて寂しくない。 季節ごとに飾り物を変え、季節感を感じて頂いています。	玄関入り口近くには職員の名前と写真が紹介されている。居室前には誕生日に家族と共に笑顔で撮った写真が貼られている。廊下には行事の時に過ごした写真が一面に貼られおり、楽しんでいる利用者の姿を窺うことができた。訪問調査当日、「日中、居室で過ごすよりホールで皆と話していることのほうが楽しい」という利用者があり、話をしながら笑顔を浮かべていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士、本人の希望とされる居場所が決まっており、皆様仲良くされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れたもの、馴染みの物を持ち込んで頂けるようお願いしています。 家族写真や、ラジカセがあり居心地良く過ごせるよう配慮している。	自宅からの使い慣れたタンスやテーブルを持ち込まれている利用者があり、自由に生活していることが窺えた。孫やひ孫の写真が壁に貼られている居室もあり、良い雰囲気の中で居心地よく過ごしていることを窺うことができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で、本人が出来る事、支援を必要とする事を職員間にて周知し、ストレスなく生活が送れるよう努めています。		